



子どもの森づくり通信

発行：NPO法人子どもの森づくり推進ネットワーク

J P 子どもの森づくり運動
参加園月例会報
(2023年9月号)

〒146-0094 東京都大田区東矢口2-6-14 tel:03-5755-3213 fax:03-5755-3081
https://www.kodomonono-mori.net mailto:info@kodomonono-mori.net

「J P 子どもの森づくり運動」とご縁をもたせていただいた方々に、活動情報をお送りさせていただいております。ご意見など賜れば幸いです。

<今月の1枚>



やっと朝晩に秋の気配を感じられるようになりました。

夏の疲れがでる時期でもありますので、体調管理にお気をつけください。

今月号は、ご好評をいただいております「園庭緑化運動」オンライン10月講座のご案内です。

今年度の最終講座となります。皆様のご参加をお待ち申し上げます。

写真は、千葉県「今井保育園」から東北に送り返されたどんぐりの苗木です。

(目次)

1. 「園庭緑化運動」2023年10月オンライン講座 参加者募集開始
2. 参加園活動レポート
3. リレーエッセイ (2023年9月号)
4. 子森ネットからのお知らせ

日本郵政グループからのお知らせ

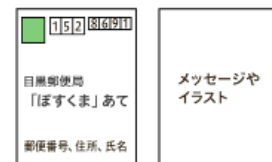
日本郵政グループは「J P 子どもの森づくり運動」の支援のほか、子ども達に向けた様々な取り組みを行っています。

【特別協賛】

 日本郵政グループ



お手紙をくれたみんなに
ぽすくまからお返事が届くよ!



ぽすくまの動画はこちら



YouTube
ぽすくま【日本郵便】
https://www.youtube.com/channel/UCeio0TZWe2WgapX_NqUUZ9A

ぽすくまと仲間たち

© JAPAN POST Co., Ltd.

ぽすくまと仲間たちは日本郵便のキャラクターです。ぽすくまは、くまのぬいぐるみのみんな手紙が大好きです。

あて先はこちら

〒152-8691
目黒郵便局 「ぽすくま」あて

※ぽすくまへのあて先を記入の際、保護者の方のサポートをお願いします。返信ご希望の場合は、手紙に住所（建物名・部屋番号まで）・氏名を忘れず記載ください。

1. 「園庭緑化運動」2023年10月オンライン講座 参加者募集開始

J P子どもの森づくり運動では、昨年につき、JP子どもの森づくり運動「園庭緑化運動」の普及を目的に「国際校庭園庭連合日本支部」との共催で、園庭緑化・自然化をテーマにすぐれた研究や活動を実践されておられる方々にご出講いただき、多様な園庭づくりの事例を学ぶオンライン講座を実施します。おかげ様で、6月講座、8月講座、大好評で、多くの方にご参加いただきました。今年の最終講座となる10月講座は理想とする保育を実践するために、昨春、新園「むぎの穂保育園」を開設された出原園長先生にお願いしました。参加者数が限られております。早めのお申し込みをおすすめします。

1) 実施概要

- ・日 時：2023年10月24日(火)14:00～16:00
- ・主 催：NPO法人子どもの森づくり推進ネットワーク
- ・共 催：国際校庭園庭連合日本支部
- ・特別協賛：日本郵政グループ
- ・協 力：(公社) こども環境学会
こども環境研究所ギビングツリー
- ・講 師：むぎの穂保育園 園長
出原 大 (いずはら だい) 先生



・テ - マ：幼児教育における自然・植物環境の重要性

【講師からのメッセージ】

「人は自然の一員」という立場から考えると、感覚器・五感が鋭敏な幼児期に自然・植物環境の中で遊び、その多様性から「生きる力」の源泉を涵養することが大切です。本講座では、幼児教育・保育・子育てにおいて忘れられている大切なことを皆さんと共に考え直したいと思います。

*「むぎの穂保育園」の活動がテレビ番組で紹介されました。

右のQRコードからご覧いただけます。⇒ [南海放送YouTube](#)



・コーディネーター：仙田 考 (せんだ こう) 先生

田園調布学園大学大学院 人間学研究科 子ども人間学専攻 准教授
国際校庭園庭連合日本支部 代表



2) 募集概要

- ・参加費：無料
- ・募集人数：先着30名
- ・お申し込み：ホームページか右のQRコードからお申し込みください。⇒



2. 参加園活動レポート

1) 「東北復興グリーンウェイ」苗木を見送る活動：大阪府「茨田第2保育所」

・日時：2023年5月16日(火) ・会場：自園 ・参加園児：21名 ・日本郵政グループ：横堤便局 城東郵便局
当日は横堤郵便局の局長さんをはじめ、城東郵便局より郵便車も出してくださいました。こどもたちに東北の震災について伝え、その地域のどんぐりを送って来てもらってここで育てたという簡単な流れを説明しました。ホームページ上の写真も使わせていただき、よりわかりやすく説明できました。今回お見送りの会に参加した年長児が、昨年の秋にどんぐりをポットに植える活動をしていたので、継続的な活動ができてよかったです。



横堤郵便局の局長さんからごあいさついただきました。



城東郵便局さんに苗木の集配をお願いしました。

2) 「東北復興グリーンウェイ」苗木を見送る活動：千葉県「今井保育園」

・日時：2023年5月16日(土) ・場所：自園 ・参加園児数：年長23名 ・日本郵政グループ：千葉中央郵便局
* 園から、すてきなレポートをお送りいただきましたので掲載させていただきます。



3. リレーエッセイ (2023年9月号)

岩井 光子さんによるリレーエッセイの今月号は、子どもの成長に寄り添う“バディ”ネットワークについてです。子どもにとっても保護者にとっても、地域のセーフティネットとしてとても重要で興味深い取り組みです。是非、お読みください。

【SDGs入門】

子どもの成長に寄り添うバディを紹介するオランダと日本の取り組み

ライター 岩井 光子



今の子どもたちは、育ちを見守ってくれる多様な人材が周囲に不足していると言われています。ミキハウス総研の昨年の調査によれば、子育て中に孤立感を感じたことがある母親は63.8%。かつては地域のさまざまな年代の人が子育てに関わっていましたが、今では子育ての個別化が進んでいるようです。

地域が果たしていた役割をマッチングシステムで補完していこうと活動する非営利団体が、オランダには40年以上も前からあるそうです。大人の登録ボランティアと、見守りや相談相手が必要な5歳から18歳の子どもを一对一でペアにし、定期的に遊んだり、おしゃべりしながら一緒に時間を過ごすのです。

この取り組みの興味深いところは、大人ボランティアが子どもたちに何かをしてあげる、教えてあげるといった指導的な立場をとらず、もう少しライトな関係性の構築を重視しているところです。事業の名称も相棒や仲間、友人を意味する“バディ”プログラムと呼ばれています。ハーグやライデンを中心に年間数百組のバディを調整しながら、地域のセーフティネットとしての機能を果たしているそうです。

このヴィタリス財団の取り組みに関心を持ち、日本で同じ取り組みを始めた女性を先日取材しました。「We are Buddies」という一般社団法人です。彼女自身は子育て経験はないのですが、拡張家族をテーマにした都内のシェアハウスに入居した時、6歳のかわいい友人ができ、第三者が程良い距離感で子育てに関わる仕組みに興味を持ったそうです。



We are Buddiesでは、「他者との関わりがあった方がいいと思われる」5歳から18歳の子どもを対象に、現在は渋谷、群馬、千葉の市原市で活動を展開しています。保護者や周囲の参加希望を受け、面接をした上で、運営メンバーが大人のボランティアとマッチングします（大人のボランティアは現在、コアメンバーの紹介や推薦者に限定し、慎重に選抜しているそうです）。保護者や参加した大人のボランティアからも、「子どもがとても楽しみにしている」「子どもの新鮮な視点に良い刺激を受けた」などと好意的な感想が寄せられているそうです。



We are Buddies

アメリカなどでも、最近はこの年の離れた「エイジ・ギャップ・フレンドシップ」を推奨する動きが見られます。とかくメディアや世間は、子育て世代、ミレニウム世代、Z世代などと世代別の特徴を際立たせようとはしますが、一人ひとりをもっと多様なはず。年齢は離れていても“バディ”の存在が明日を生きる原動力になり、世界の広さを知るきっかけにもなる。そんな経験は子どもにも大人にも必要な気がします。

人々が個性を認め合い、共に活動するインクルージョンは、目標10の「人や国の不平等をなくそう」で強調されています。

※【筆者紹介】岩井 光子氏：ウェブメディア“think”編集。SDGs関連の記事をニューズウィーク日本版、ELLEなど、一般誌で執筆。群馬県高崎市在住。

4. 子森ネットからのお知らせ：子森サブチャンネル更新情報

子森ネットでは、保育者世代に楽しんでいただける動画を発信している「子森サブチャンネル」を発信しております。最新のコンテンツは「牛乳パックようかん」の作り方です。右のQRコードからご覧いただけます。

